

道徳であらうが、それが善であらうが、惡であらうが、其隣人の自分の生命を脅かす爲めには何れも、醉へ、斯ういつて来たまき、其罰として、世界の國民が戦慄すべき、あの恐ろしい戦争が来たのである。若も醉はなければ、戦争は来なかつたものを、血を見るこによつて罰を受けたのである。新しき文明は戦むつゝある、それは醉はざる、眞面目なる、新しき精神文明である。此意味に於て諸君、佛蘭西の國は今醒れる國に醒へられつゝある、米國はさうであるか、デカンの國民、酒を、酒を本領としたこの人達は、今や酒を捨てた、醉つ拂はない、醒めかした、充實したこの國民性を涵養せんとして居る、遊覽をさし、米國が世界に於て最も多くの國民を持つて居つて、——一億一千萬の人口を持つて居つて、さうして彼等は一千九百二十年の一月十六日を最後に、酒を捨てたではないか、東洋の君主國として立つこの吾々日本人が、さうしい亞米利加に負けるか、吾々は益々奮然と立つて、酒、殊別をしなければならぬ、酒を禁絶して、東洋の精神文明を完成しなければならぬ、(拍手)

禁酒市の出現

精神文明ニアルコールリズムは、違つた道である、今や新しき文明が起りつゝある、酒の利欲によらざる新しき文明へ、諸君遂は揮つて走り加はるべきである、けれども、「私は、杯を今叱から捨てるか、あなたはさうなさうか知らない」、さういふやうではいけない、故に新しき方法を執つて新しき運動に移り、京都全体に酒がなくなるさういふ方法を執りたい、兵庫縣の如きは、酒の如き所があるために一番遅れるであります、私は兵庫縣に住んで居りますけれども、日本の國の酒の三分の一は兵庫縣で造られるのであるからして、私の町に私の縣は可なり遅れるだらうけれども、此立派な京都府の如きは先づ第一に禁酒市なり、禁酒市なること、思ふのであります、又さうなつて眞はなければならぬのであります、諸君の努力をお願ひして、此壇を降りたいと思ひます。(拍手)

大正九年四月京都市公會堂に於ける禁酒大講演會の筆記